

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人陵友会		
事業所名	グループホーム桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村報告日	平成22年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成22年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態の変化に速やかに対応して、協力医療機関と連携があり、安心して暮らして頂けるホームである。にゆうきよしゃ、家族、高校生の協力の下に事業所で運動会を開催することができ、地域との交流を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングは広いガラス戸越しにテラス、庭へと続いており開放感がある。台所もリビングと一体化が図られており、生活感あふれるにおいや音が入居者への刺激となるよう工夫されている。花や装飾品でも季節を感じられるように配慮されており、居室づくりでも個別の支援がされている。食事もしっかりと時間をかけて楽しまれており、家庭的な雰囲気が伝わってくる。菜園での活動や隣接施設への訪問も生活リハビリの場として活用されている。入居者家族にも草刈りや行事参加などで積極的に関わりを持つ場の提供が支援されており、職員との連携関係も良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に」の理念の下、利用者が地域生活ができるように支援している。	利用者一人ひとりを中心に据えた介護と地域との共生を理念に掲げ、特に年度始めには理念を確認事項にあげることで、職員全員への徹底を図っている。	運営推進会議の機会をととして、地域や家族に向けた理念の啓発も期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りに参加したり、地元の方が犬の散歩で立ち寄られたり、地元の高校生が運動会や奉仕作業に参加されたりと交流している。	祭りなど地域の行事や買い物に出かけ、地域の人々との交流を図っている。地元の高校生にも運動会や清掃奉仕に来てもらっており、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護者教室開催について相談を行っている。キャラバンメイトに参加したので、地域へ認知症ケアの啓発に努めていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者情報、活動報告を行っている。また、会議において防災面を指摘され地元消防団に協力を得て、施設内見学と誘導の方法を確認した。	行政・老人会会長・地域の区長・家族会長等の出席で、ホームの状況報告などの他に地元の情報提供や防災について提案してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会等に入居者と出かけ、役場担当者に入居者の様子を伝えている。	運営推進会議に出席してもらい、お互いに情報交換をしている。認定更新などの際には入居者と一緒に役場を訪れ入居者の様子も伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない	身体拘束廃止委員会が系列施設にあり、研修会・委員会に参加している。また、玄関の施錠は行っていない。	法人内に身体拘束廃止委員会が設けてあり、研修会・委員会にも出席することで職員の認識や確認を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度始めのスタッフ会議にて、高齢者虐待防止法について再確認した。		

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要と思われる方について、地域包括センターや関係者と話をを行い活用を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険の改定について家族会や面会時に説明を行い理解と納得を得ている。参加されなかった方には、訪問をして説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回の家族会を開催して、意見を聞くように努めている。面会時には、利用者の様子を伝えて話しやすい雰囲気を作っている。家族の希望の出した、清和文楽へ出かけ家族の参加もあった。	定期的に「さくらの丘」だよりを発行して入居者の様子を伝えている。年4回開催されている家族会への参加も多く、自主的な草刈り作業や運動会への手伝い・ミニ旅行などでの家族の協力もホームの運営を支えており、良好な連携体制ができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(1回/2ヶ月)を行い、意見や提案を聞いている。	定期的な会議や企画管理委員会で職員の意見や提案を述べる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるよう支援し、また期待している。職員面接を年2回実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では各職員の職責に応じた研修会を実施(1回/年)また、月次研修会(6回/年)実施。法人外研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協、県社協や同郡内の同業者の会議等に参加し、相互ネットワークの構築に努めている。		

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に本人の思いを尋ねるなど面談をして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に家族がこれまで苦労したことや利用したサービス等の話を聞き、家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に、当施設の利用が出来ない時には、他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の活動、季節の行事や畑の仕事など入居者より教を乞う場合もあり共に過ごす関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状態を報告、相談し求めに応じてケース記録を閲覧してもらい改善を行ったり、本人の不安な状態や訴え時に家族へ連絡して安心できる様に支援している。園外行事に参加される家族もおられ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接した施設に出かけたり、来訪を受けたり、地域の祭りに出かけたり馴染みの関係を保っている。姪さんのクリーニング店に週末以外出かけている方もいる。	買い物に行った先で知人と出会った際や、隣接施設のイベントに参加したり、地元の祭りに出かけたり、馴染みの人や場所との関係継続には努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をスタッフ会議にて、情報を共有して調節している。世話役の方に、話し相手になってもらったりしている。		

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合には、利用者と面会に出かけたり、家族と連絡を取り情報の共有に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現出来る方は、日々の会話の中で思いや希望を得ている。困難な場合には、カンファレンスで検討したり、家族に協力を得るようにしている。	日常生活の中で思いや意向を把握して希望に沿えるよう努めており、意志確認が困難な人に対しては毎月のカンファレンス時で検討したり、家族に聞くことで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者ごとに、その人独自の生活暦、ライフスタイル、価値観があることを踏まえて、家族の協力により、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り簿、個別記録などによりひとり一人の生活のリズムを理解し、小さな動作を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などの日々のかかわりの中で家族の意見を聞くようにしている。又スタッフ全員でモニタリングやカンファレンスを行い反映させている。	担当の職員が暫定プランを立て、計画作成担当者と共に作成している。介護計画は毎日のケア記録の中に入れいつでも職員が確認出来るようにしている。カンファレンスも毎月実施し、特に変化がなければ定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや利用者の状態変化は、個別のケース記録や日誌に記録して他の職員にも伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携をいかして、ホームで点滴を行い、利用者の負担を減らす為にも、早期退院を求めている。		

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容サービスを利用されたり、併設施設のリフトカーやマイクロバスを利用して園外へ出かけている。地元の高校の体育祭や文化祭に招待されたり、ホームの運動会に招待して交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他にかかりつけ医があり、訪問診療を受けられる方もいる。家族と町外のかかりつけ医を受診される方には、情報提供を行い連携に努めている。	ホーム協力医院や町内のかかりつけ医の受診は職員が支援している。家族が同行した場合は、受診後の情報共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、健康管理や状態の変化時には、速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する情報提供を行い、安心して入院できるように支援している。本人の負担を減らすためにも早期退院できるような連携を取っている。また、家族とも回復状況等の情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、現在まで行っていないが、家族の意向は確認している。	入所時に家族の意志を確認しているが、最終的には家族・かかりつけ医師・ホーム側で話し合いを持ち対応するようにしている。職員に対する終末期に関わる研修も計画されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、年1回の応急手当の勉強会を受けている。夜勤帯の緊急時の対応については、マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施して、誘導や消化器の使い方などを行っている。非常用食料、備品も準備している。年末には、地元の消防団の夜警見回りが行われている。	併設施設と合同の防災訓練では昼間と夜間想定で実施されている。年末は地元の消防団による夜警見回りも行われている。	家族の不安や地域からの提案などを考慮に入れ、全職員の普段からの心構えの為にホーム独自の防災訓練も期待されます。

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声かけにて誘導を行っている。今年度は、目標に接遇を挙げて、スタッフ同士注意し合えるように努めた。	今年度の目標にも「接遇」をあげており、入居者の尊厳と誇りを傷つけないようなケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをし、本人が選べる場面を作っている(おやつ飲み物等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れは決まっているが、利用者のペースに合わせて見守りながらケアしている。帰宅要求があれば、付き添い出かけたり、買い物に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴後に乳液を用意されている方もいる。行事の際には化粧をしたり、気分転換にマニキュアを塗ったりしている。行きつけの理容店に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から野菜を収穫したり、食事の準備、味見、片付けを一緒に行っている。包丁が使えない方でも、テーブル拭きや野菜の皮むきを手伝われる。	入居者の好みや希望を取り入れ献立をたて、入居者と一緒買い物にも出かけている。調理は入居者の能力に応じて協力してもらっており、食事と一緒にテーブルでゆっくり楽しんでいる。入居者と一緒につくった自家菜園の野菜も利用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が低下している方には、チェックリストを作成して、声かけや湯飲みを持たせる等行って摂取量確保に努めている。義歯が合わなくなった方には、必要に応じて刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨き誘導、義歯洗浄を行っている。自歯のある方は、定期的に歯科受診を勧め受診されている。		

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつパターンを職員が把握して、時間誘導や排泄のサインを見逃さないように誘導している。トイレが認識できない方には、付き添い腹部マッサージや声かけを行い排泄に繋げている。	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、サインを見逃さないように声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、便秘気味の方には、腹部マッサージ、水分摂取、散歩、体操を心掛け、個人に合った下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方には、畑仕事の後や、ゆっくり時間のかかる方には順番を後にする等工夫している。	入居者の希望や状態に応じ、いつでも対応することができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせて、添い寝や日中の活動を促したり、前夜不眠の方には、眠気が見られたら休むように声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬に関して、毎年勉強会を行い、副作用についても一覧表を作成してスタッフで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮できるように手伝いを依頼している。食事作り、梅干し作り、干し柿作り等利用者の知恵や経験を発揮できる場面を作っている。また、併設施設への慰問に参加して楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、買い物や家族の面会に出かけている。月2回の圏外行事も家族の協力を得て実施している。	買い物や散歩・家族への面会など、入居者の希望に添うように支援している。また定期的なドライブも楽しんでおり、その際に家族の協力も得られている。	

グループホーム 桜の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額を手元に持たれ、食材の買い物に同行され、本人の買い物もされている。家族よりお金を預かり管理している方も買い物や喫茶代を自分で払っていただけのようにお金を手渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をして欲しいと訴え時には、電話をかけているが、自らかけられる事はない。年賀状など書くように勧めたが書かれなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間があり、台所での調理の音やにおいを感じられたり、テラスや庭でお茶や食事をして季節を感じられるように努めている。	リビングと台所との位置関係がよく、入居者が一緒に食事の準備や後かたづけをするのにも都合が良い。また廊下にもくつろげる空間が設えてあり、全体にゆったりと広く開放感があり、入居者が思い思いの場所で過ごせるためのハード面に優れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フラットな畳の間と段差のある畳のある間があり、お気に入りの場所で昼寝をされたり、テラスには、長椅子と一人用の椅子があり、それぞれ好みで使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が面会時にゆっくりできるように和室に座卓を置かれたり、本人の好む花を飾られたり、家族手作りのパッチワークを持ち込まれたりしている。担当が写真を飾っている部屋もある。	居室は和洋2種類があり、ベッドも入居者の持ち込みになっている。使い慣れた家具やぬいぐるみ・花などが飾られている居室もあり、安心して暮らせるよう居室作りの支援がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわからないのか？どうしたら分かるのか？を検討して環境整備に努めている。(夜間のトイレの表示)		

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 2月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「地域とともに」の理念の下に、利用者の地域生活を支援しているが、今後は、地域、家族に向け、理念の啓発を進める。	運営推進会議・家族会で、理念を伝える。	運営推進会議・家族会のレジュメに理念を記載して、その都度伝えていく。	3ヶ月
2	35	現在、防災訓練を併設と年2回行っているが、グループホーム独自の訓練を行っていない。	グループホーム独自の防災訓練を行う。	月1回グループホームの防災訓練を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。